

インフルエンザ (インフル) ワクチン (生,鼻腔内): 知っておくべきこと

ワクチン 情報 報告書の大半は、スペイン語と他の言語にてご利用できます。
www.immunize.org/vis を御参照ください。

Hojas de información sobre vacunas están disponibles en español y en muchos otros idiomas. Visite www.immunize.org/vis

1. なぜ予防接種を受けるのですか？

インフルエンザワクチンはインフルエンザ(インフル)を予防することができます。

インフルエンザは、毎年、通常、10月から5月の間に米国全土に広がる伝染病です。誰もがインフルエンザに罹患する可能性があります。一部の方にとっては大変危険です。乳幼児、子供、65歳以上の人、妊娠中の人、特定の健康状態または免疫力が弱っている人はインフルエンザによる合併症を起こす可能性が高くなります。

肺炎、気管支炎、副鼻腔感染症、および耳感染症は、インフルエンザ関連の合併症の例です。心臓病、癌、糖尿病などの病状がある場合にインフルエンザはそれを悪化させる可能性があります。

インフルエンザは、発熱や悪寒、のどの痛み、筋肉痛、疲労、咳、頭痛、鼻水や鼻水を引き起こす可能性があります。一部では、は嘔吐や下痢を引き起こす場合があるかもしれませんが、これは大人よりも子供により一般的におこります。

米国では、例年で **何千人もの方々が**インフルエンザが原因で**死亡**し、さらに多くの方々が入院しています。インフルエンザワクチンを受けることによって、毎年何百万もの病気を、そしてインフルエンザに関連した医師への訪問を防ぐことができます。

2. 生弱毒化インフルエンザ ワクチン

CDCは、生後6ヶ月以上のすべての人に、毎年インフルエンザの予防接種を受けることを推奨しています。生後**6ヶ月から8歳**までの子供には、毎年2回の接種が必要な場合があります。その**他の人**はインフルエンザの時期ごとに1回だけ接種する必要があります。

生弱毒化インフルエンザワクチン(「LAIV」と呼ばれる)は、**2歳から49歳**までの非妊娠者に投与することができる鼻スプレーワクチンです。ワクチン接種後、免疫による予防保護力が発達するまでに約2週間かかります。

インフルエンザウイルスは数多く存在し、常に変化しています。毎年、新しいインフルエンザワクチンは次のインフルエンザシーズンに病気を引き起こす可能性が高いと考えられるインフルエンザウイルスからの感染を予防するために作られています。ワクチンがこれらのウイルスと完全に一致しない場合でも、ある程度の予防を提供することができますと言えるでしょう。

インフルエンザワクチンは**インフルエンザを引き起こしません**。

インフルエンザ ワクチンは、他のワクチンと同時に接種が可能です。

3. 医療提供者に相談する

ワクチンの接種を受ける方が以下の状況にある場合は、予防接種提供者にその旨を通知してください。

- **年齢が2歳未満 または49歳以上**の方
- 妊娠している。生の弱毒化インフルエンザワクチンは妊娠中の方にはお勧めできません。
- **インフルエンザワクチンの前回投与後にアレルギー反応**を起こした、または**重篤で生命を脅かすアレルギー**がある
- **2歳から17歳**までの子供または青年で、**アスピリン**または**アスピリン**または**サリチル酸塩**含有製品を服用している
- **免疫系が弱くなっている**方
- 過去12ヶ月間に喘息または**喘鳴歴がある2歳から4歳の子供**
- 5歳以上で**喘息**を持っている
- 過去3週間にインフルエンザの**抗ウイルス薬**を服用している
- **保護された環境を必要とする重度の免疫不全**の方々の**世話を**している
- 重篤なインフルエンザ合併症(肺疾患、心臓病、腎臓)



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

病 糖尿病、腎臓または肝臓障害、神経学的または神経筋学的または代謝障害など) のリスクを高くする可能性のある他の基礎疾患を有している

- 脾臓がない、または機能していない脾臓をお持ちの方
- 人工内耳インプラントを装着している
- 脳脊髄液漏出症(脳を取り囲む体液が鼻、喉、耳、または頭部の他の場所に漏れている)を持っている
- インフルエンザワクチンの前回投与後6週間以内にギランバレー症候群に罹患したことがある

場合によっては、医療提供者は、先の来院までインフルエンザ予防接種を延期すると決定するかもしれません。

一部の患者にとっては異なるタイプのインフルエンザワクチン(不活性化または組換えインフルエンザワクチン)が、生の弱毒化インフルエンザワクチンよりも適切である可能性があります。

風邪などの軽度の病気の方は予防接種を受けても問題ありません。中等度または重度の病気の方は通常回復するまで待ってからインフルエンザワクチンの予防接種を行う必要があります。

さらに詳しい情報は、医療提供者に問い合わせてください。

4. ワクチン反応のリスク

- LAIVワクチン接種後に鼻水や鼻づまり、喘鳴、頭痛がおこる可能性があります。
- 嘔吐、筋肉痛、発熱、喉の痛み、咳等も副作用として生じる可能性があります。

これらの問題が発生した場合、それらは通常ワクチン接種後すぐに始まり、軽度で長くは続きません。

他の薬品と同様に、ワクチンが重度のアレルギー反応、他の重篤な傷害または死を引き起こす可能性は非常にまれです。

5. 深刻な問題が発生した場合はどうすればよいですか？

アレルギー反応は、ワクチンの接種を受けた方が診療所を出た後に起こることがあります。重度の

アレルギー反応(じんましん、顔や喉の腫れ、呼吸困難、急速な心拍、めまい、または衰弱)がみられる場合には、**9-1-1**に電話し、その方を最寄りの病院にお連れ下さい。

その他の懸念事項については、医療提供者にお電話をおかけください。

副作用は ワクチン有害事象報告システム (VAERS)に報告する必要があります。あなたの医療提供者は通常、このレポートを提出しますが、あなた自身で行うこともできます。

www.vaers.hhs.gov のVAERSウェブサイトをご覧ください。ただか、**1-800-822-7967**。までお電話ください。VAERSは反応を報告するのみの機関であり、VAERSのスタッフは医学的アドバイスは提供いたしません。

6. 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム(VICP)は、特定のワクチンによって負傷した可能性のある方々を補償するために作成された連邦プログラムです。ワクチン接種による傷害または死亡の申し立てに関する請求には提出期限があり、最短で2年になる場合があります。

www.hrsa.gov/vaccinecompensation のVICPウェブサイトアクセスするか、**1-800-338-2382**にお電話し、プログラムと請求の提出についてお調べください。

7. もっと詳しく知るには？

- 医療提供者にお問い合わせください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- 食品医薬品局(FDA)のウェブサイトでのワクチンの添付文書と追加情報をご覧ください。
www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines
- 疾病管理予防センター(CDC)にお問い合わせください。
- **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
- www.cdc.gov/fluのウェブサイトをご覧ください。

